

# わくわく田底っ子

第34号

文責：校長 益永 一幸

## 2月に入りました ～素敵な春を迎える準備をしよう～

2月全校集会校長の話：どこかで春が生まれてる「節分」

2月になりました。2月は1年のなかでも短い月ですから、あっという間に逃げてしまおうとも言われています。

ところで明日2月3日は何の日か知っていますか。「節分」です。江戸時代頃から、冬から春に季節を分ける日ということでこのように言うようになったそうです。そして、節分の次の日は何の日でしょうか。2月4日は「春が立つ」と書いて、春の始まりとされる「立春」といわれる日です。昔の暦では、この頃が1年の始まりであるとされていました。

節分の行事は、「鬼は外、福は内」と大きな声で福豆を撒き、年の数より一つ多い数だけ豆を食べます。最近は、幸せを招く方向を向いて黙って巻き寿司を丸かじりする「恵方巻を食べる」という風習も人気です。

長く厳しい冬が一段落して、春の訪れを待ち望む歌もあります。「春よ来い」「春が来た」「どこかで春が」「花（春のうららの隅田川）」などです。

このように、「節分」は春を迎えるために、昔からある大切な日と言えます。

みなさんは、春をどのような気持ちで迎えますか。心の中に棲む見えない悪い鬼は、「鬼は外」で追い払いましょう。そして、ちょっと苦手なことでも最後まで頑張りましょう。そうすると、きっとすてきな春を新鮮な気持ちで迎えられるですよ。

## 6年：こころの劇場に参加～夢や希望を持つ大切さ～

熊本市の全小学校の6年生を対象に「劇団四季こころの劇場」の観劇が行われています。コロナ禍で過去3年間はオンライン視聴でしたが、今年度から市民会館シアーズホーム夢ホールの大ホールで、しかも、田底小は最前列の席で舞台演者の表情まで見ることができました。

美しい心を持ったロボットの「エルコス」が、様々な理由で心を閉ざされていた子どもたちと接し、一人ひとりの個性を引き出し、夢や希望を取り戻すというストーリーでした。舞台演者たちの心のこもった本物のミュージカルに触れ、子どもたちは感動していました。



「語りかけよう」

作詞 梶賀千鶴子  
作曲 鈴木邦彦

見つめあおう 語り合おう  
君と共に この手つないで  
見つめあおう 語り合おう  
君と共に このぬくもりを  
苦しみをわかちあう  
すばらしい仲間  
ほほえみが今よみがえる  
やさしさが  
見つめあおう 語り合おう  
君と共に 生きてゆこうよ